

彩の国ホテル旅館ニュース

THE SAINOKUNI HOTEL RYOKAN NEWS

2015.3(平成27年3月)

第108号

春期号

年2回発行

「共有と結束」「連携と協働」

埼玉県ホテル旅館生活衛生同業組合
埼玉県さいたま市浦和区高砂 4-4-17
〒330-0063 TEL 048-861-9511/FAX 048-866-2374

発行日：平成27年3月10日
発行人：編集人：池田友久

URL <http://www.saiyado.com>

今年度の事業活動日誌

埼玉県おもてなしセミナー開催

基調講演、受賞者の取組発表、座談会など… 1



第3回おもてなし委員会とIT部会を開催、インバウンドを考える…2

全旅連が理事会と支部長会議開催

次期会長予定者に北原氏(京都府理事長)を選出… 6



全旅連は実務の手引きや知識の涵養となる「旅館ホテルにおける食物アレルギーのお客様対応マニュアル」を発行し、各都道府県組合を通じて全組合員に配布していくことになった



第2回旅館甲子園開く

オンリーワンへの道を競うファイナリスト… 9



県がおもてなしセミナーを開催

基調講演・大賞受賞者の取組発表・座談会など

些細なアイデアから感動の「おもてなし」が生まれる

「サービス」と「ホスピタリティ」おもてなしに近いのはホスピタリティ

「商品で客をつくるが、サービスで客をなくす」

ハリテイズリゾートも取組みを発表

ハリテイズファームや多言語対応を

県では、平成26年度埼玉県おもてなしセミナーを2月5日、浦和コミュニティセンターで開き、「愛県心とおもてなし」をテーマとした島田始氏による基調講演のほか、埼玉県おもてなし大賞受賞者による取組発表、そして「平成26年度おもてなし大賞を振り返り、今後のおもてなしを考える」をテーマとした座談会を行った。

島田氏は「些細なアイデアから感動のおもてなしは生まれる」と述べながら次のような講演を行った。

◇おもてなしに近い単語として、サービスやホスピタリティを思い浮かべる人も少なくないが、実は「おもてなし」とホスピタリティは意味が近いがサービスは大きく異なる。サービスの目的はお客様の権利・欲求に見合った義務と充足を提供することであり、そのためサービスは規則やマニュアルで行動することがベースとなる。ホスピタリティは提供する人が「お客の立場に立って、個々



基調講演を行う島田氏とハリテイズリゾートの取組みの発表者



島田氏を囲んでの大賞受賞者たちによる座談会

の場面で最適なアクションを行い、お客様にとって唯一の喜びや感動を提供すること。つまり頭の中で考えて、目の前にいる人が喜んでくれることを実行することだ。

◇「商品で客をつくるが、サービスで客をなくす」という格言がある。例えば、どんなに最高の料理でも、それをむっつりした冷たい感じでお客に出したとしたら、どうだろう。お客は「もう二度とはきたくはない店」と感じてしまうかもしれないということ。サービスにはそんな危険性もあることを認識すべきだ。

◇「地域の魅力の発掘」と「おもてなし」の両方につとめる時、それが自分たちの誇りとなって郷土愛に

埼玉県おもてなしセミナー / 埼旅組・おもてなし委員会



つながると言っている。埼玉県は都市型・農村型・山岳型・水辺型の魅力をもつ県で、これは全国でも少なくない。魅力を開発し、おもてなしをしっかりとやりたいものである。「また、ここに来たい」と思ってもらえるように。観光とは何も外人をおもてなしをするだけではない。それは、最終的には自分のまちが元気になることに繋がると認識したい。

埼玉県おもてなし大賞受賞者の取組発表では、「石坂産業株式会社」(三芳町)が三富の歴史・文化を五感で体験する施設「三富今昔語り館」を設置し、体験を通してのおもてなしやホスピタリティコーディネーターの資格(NPO法人認定)をもったスタッフによる接客などについて説明。奨励賞の「オープンガーデンよこぜ」(横瀬町)は、70件の個人宅が庭園を整備し、横手町を訪れた観光客のために自宅の庭を解放、楽しい会話でおもてなしをしていることなどを説明した。

また、特別賞の「株式会社ヘリテイジリゾート」(熊谷市)は東京

第3回おもてなし委員会開催 埼玉県のインバウンド施策について

今なぜ「外国人誘客」なのか 県観光課の江後氏が講話

埼旅組では平成26年10月30日、川越第一ホテルで第3回おもてなし委員会とIT部会を開き、おもてなし委員会では観光課の江後真澄企画・国際観光担当が埼玉県のインバウンド施策について次ぎのように語った。

◇国の訪日外国人は、去年は1000万人を達成し、さらに2000万人を目指すとともに、2030年には3000万人を超えることを目指す。埼玉県の観光については、平成25年は全国で21位。宿泊者は31位というのが現状となっている。

◇今なぜ「外国人誘客(インバウンド)」なのか? といえば、日本は人口減少時代へ向かうため、訪日外国人に観光を楽しみつつ消費してもらい経済の活性化を目指さなくてはいけないためだ。埼玉県のインバウンド施策としては、受入体制整備観光案板の多言語化促進、指差し会話集の設置促進、アジアをターゲットにした誘客の推進、台湾からの修学(教育)旅行の受入れ(親日度が高く、日本は憧れの国No.1でリピーターになる確率も高いため)など考えられている。

◇プロモーションの推進では、「VISIT JAPAN トラベルマート(国主催の国内最大規模のインバウンド商談会)の実施(東京ビックサイ



埼玉県のインバウンド施策について語る県観光課の江後氏

トで開催)、海外マスメディアや旅行業者の招聘事業、国際観光展への出展(上海)、在住外国人による情報発信事業(県内の市町村との共同事業。モニターツアーとして外国人の好みを知るために体験してもらい、SNSで発信してもらう)の推進を図る。

◇今後の課題では、東京オリンピック・パラリンピック開催決定を踏まえた受入環境整備促進が挙げられる。効果的なプロポーションで、東京を訪れる外国人をいかにして埼玉県に誘致するかが大きな課題だ(モニターツアーの実施もその一つ)。

◇刻下の課題としては、無料公衆無線LAN環境の整備促進、おもてなし力アップ研修(県内事業者の受入れ態勢向上のための研修、通訳案内士のガイド能力スキルアップの研修など)などだ。国家資格の通訳案内士は各県で900人ほど登録しているが、埼玉県の場合、東京で仕事している人が多く、こういう人たちに埼玉の観光スポットも学んでもらうことも必要だ。

オリンピックに向けて多言語対応スタッフがおもてなしをしていることや埼玉県産の肉や野菜を使った料理でのおもてなしなどのほか、「赤ちゃんと一緒に温泉旅行」と埼玉県初となるウエルカムベビーの部屋の設置などについて報告。このほか、女性社員のみで構成するおもてなし推進委員会を設置し、女性目線でのおもてなしの実践やおもて

なし宣言パッチを作成し、社員の接客意識の向上に努めている「カワラリゾート株式会社」(小川町)やご当地アイドルとファンがゴミ拾いなど地域で美化活動を行っていることや、地元イベントに参加し、歌とダンスで観光客をおもてなしをしているという「お掃除ユニット川越 CLEAR 'S」(川越市)の事例が説明された。

大きく変わる観光に対する考え方や取組み

理事長 北堀 篤

旧年中は組合活動に、また、様々な場面でご尽力いただき誠にありがとうございました。

さて、日本経済はいま、15年苦しんだデフレ経済からの脱却に向けて着実に前進しておりますが、誰もが経済回復を実感するまでには至っていないのが現状であります。

景気回復力の弱さの原因は個人消費にあると言われておりますが、その低迷がホテル旅館業界に対しても大きな影響を与えていることは言を待たないところです。

こうした状況下、今こそ私たちは魅力ある地域づくりや旅館ホテルづくりに勤しまなければならない時を迎えていることをしっかりと認識する必要があります。

近年、観光に対する考え方や取組みにも大きな変化が生じておりますが、埼玉県においても、そうした取組みや県の動きに呼応した県内市町村による対応事例が多くみられ、観光によって地域を豊かにしていく気運が高まりつつあることは大変喜ばしいことであります。

これは、観光に対する概念がいま大きく変わりつつあるということです。団体旅行、物見遊山型から個人旅行、参加・体験型への変化、そして、現在は、地域住民との交流を体験する交流型の観光が顕著となりつつあります。人との温もりある触れ合いや心の潤いを求めているものであり、それは「地域」と「人」、そして「意欲」があれば実現可能となるものです。

今、「おもてなし」の精神が強く求められているのは、こうした旅行者が主流となっていくためです。おもてなしは大上段に構えるものではありません。それは「心のこもったまさに自然な応対」であるといっているでしょう。画一的な価値を提供する「サービス」から脱却し、感動を与える「ホスピタリティ」を標榜する旅館ホテルにこそ未来があると確信しております。

これからは他の地域や業種との連携を視野に入れた総合的な観光振興が求められてくることは確かです。行政や民間がそれぞれの立場から観光事業を推進していく態勢の強化を目指しながら、まずは身近な問題にしっかりと対峙してその解決を図り、次世代の旅館ホテル経営者が夢や希望をもてるような旅館ホテルづくりを進めて参る所存です。組合員の皆様のご理解とご協力を切に願うものであります。



「埼玉から未来を築く」～埼玉の地方創生～

埼玉県知事 上田 清司

埼玉県ホテル旅館生活衛生同業組合の皆様、新年おめでとうございます。

昨年は、人口減少により全国約半数の市町村が将来「消滅」しかねないとする試算が出され、地方創生が大きな課題になりました。

本県では、埼玉を元気にする施策で成果を挙げてきました。

平成17年から758件の企業誘致を果たし、約2万4千人の新規雇用と約1兆890億円の投資効果を見込んでいます。過去10年の企業本社の転出入も1,324社の転入超過で日本一です。

グローバル人材の育成では4年間で1,065人の若者を県の奨学金で海外に送り出しました。

また、健康寿命の延伸と医療費の抑制を目指し、「健康長寿埼玉プロジェクト」に取り組んでいます。

既存の住宅街区をエコタウンに変えていく「埼玉エコタウンプロジェクト」では、「スマートハウス」に変える取組を進めています。

一方、本県の生産年齢人口は2025年までに約51万人減少すると推計されます。医療・介護の需要も増加します。これらに備え先手を打つのが埼玉の地方創生です。

そのために3つの柱が重要です。

一つ目は生産年齢人口の減少をカバーする取組です。女性の力を社会で最大限に生かす「埼玉版ウーマノミクスプロジェクト」を進めています。

女性やシニアの活躍で生産年齢人口の減少をカバーするという課題に埼玉が率先して取り組みます。

二つ目は、次世代産業の育成です。

国際競争で勝てる産業を育成し、埼玉に集積させる「先端産業創造プロジェクト」に現在取り組んでいます。新たな産業が新たな雇用や生産、消費を生む仕組みを構築します。

三つ目は、あらゆる部門での生産性向上です。とりわけGDPや雇用の中心を占めるサービス産業の経営革新が不可欠です。この問題に官民協力して取り組みます。

本県は全国最多の自主防犯組織の活動や県民主体の「みどりと川の再生」など共助の力で成果を挙げてきました。県民パワーを生かし、埼玉の地方創生に全力で取り組みます。



新年交歓会を第1区で開催 第3区副理事長の選出で石川氏を



埼旅組は1月22日、ホテルプリランテ武蔵野で大勢の出席を得て新春賀詞交歓会を開いた。第1部は篠崎専務理事の司会のもと池田副理事長の開会のことばに続いて、北堀理事長があいさつ。来賓からは多くの国会・県会・市会の各議員や行政から祝辞が述べられ、組合の観光振興活動に期待が寄せられた。



第2部は橋本大宮支部長の司会で、小泉副理事長の開会のあいさつに続いて来賓あいさつが行われ、石川副理事長の乾杯の音頭で杯をあげて懇親会に移り、アトラクションを楽しみながら賀詞交歓会は賑々しく



行われた。本年も会場には指定商社・彩国会による展示会があり、出席者らは経営に役立つ商品の情報収集に努めることが出来た。



第4回理事会は県外研修を兼ねて伊豆稲取温泉の「石花海」で開催され、第3区副理事長の選任については、深谷支部長の石川栄治氏（きんとう旅館）が理事長より推薦されて了承された。

第23回埼玉県環境衛生大会開催 旅館業関係で伊藤幾造氏ら4氏を表彰

第23回埼玉県環境衛生大会が10月27日、さいたま商工会議所会館で開催され、表彰式では旅館業から伊藤幾造氏（川越支部：川越第一ホテル）＝写真＝が優良施設表彰として、保坂誠氏（西武支部：新狭山第一ホテル）が優良従業員表彰として、それぞれ知事表彰を受賞した。また、橘田正弘（坂戸支部：シティ・イン鶴ヶ島）と柴田紀子（秩父支部：新木鉦泉の両氏が衛生功労表彰として協会表彰を受賞した。



議事では、このほか旅政連会費、全国大会参加への補助、おもてなし委員会の活動報告、NHKよりの文書、EV充電器などについて審議された。写真は理事会と副理事長に新任された石川氏

埼玉県ホテル旅館NEWS

情 / 報 / 交 / 差 / 点

■ 埼旅組の平成26年度県外研修＝写真＝は11月17、18の両日行われ、わさびの大見屋でワサビ漬作りの体験を行ったほか、蕪山の反射炉と蔵屋鳴沢の地ビール工場を見学した。

■ 外国人観光客を接客する際、うまくコミュニケーションがとれない、そんなお悩みをもつ人のために、外国語を知らなくても文章や単語を指さして意思疎通ができる「O・MO・TE・NA・SHI 指さしコミュニケーションシート」が作成され、これは全組合員にも配布された。

シートは旅館でのやりとりを想定した「宿泊編」、食堂での「飲食編」、土産物店での「物販編」の3種類。A3サイズのカラー紙の表裏に、多くの外国人観光客に対応するため、英語、中国語簡体字、中国語繁体字、韓国語で作成、埼玉県内の観光地や名物等の購入を促すため、周辺の観光地や名物について質問するフレーズも掲載英語と中国語、韓国語でそれぞれ約70の文章や単語が一覧になっている。例えば物販編なら、従業員側が指さす欄には「おすすめは



これです」「こちらでお並びください」などの文章が、外国人客が指さす欄には「いくらですか」「海外へ送れますか」などの文章が記載され、それぞれに3カ国語と日本語訳がついている。全てのシートに外国人客が県内の見どころや名物を質問できる文章を添え、埼玉の魅力を発見してもらえるようにした。2020年の東京五輪開催に向けて外国語を話す相手への応対に慣れてもらい、県内の受け入れ態勢の強化を図る狙いもある。

耐震改修の実施県拡大で協力を依頼 チェーンホテル一括入会などが議題に



食物アレルギー対応地域指導者育成研修会が中心となった都道府県組合事務担当者研修会

全旅連は10月29日、東京・千代田区の砂防会館で、平成26年度生活衛生関係営業対策事業として「旅館ホテルにおける食物アレルギー対応地域指導者育成研修会（都道府県事務担当者研修会）」を開き、主テーマのほか「全旅連活動」「チェーンホテル一括入会」や「EV充電インフラ普及支援PJ」などについてレクチャーを行った。

研修会のテーマとなった「食物アレルギー」関連の講演は、旅館ホテルにおける食物アレルギー対応地域指導者の育成を図ろうというもので、「食物アレルギーの基礎知識～外食産業に求められる対応とは～」について国立病院機構相模原病院臨床研究センターアレルギー性疾患研究部の林典子栄養士が講師を務め、食物アレルギーの全体像に触れた講話と、勝田全旅連事務局長による旅館ホテルにおける食物アレルギーに対する実務的な対応を内容とした二つの講話による。

また、「EV」についての講話のほか、各都道府県組合からの報告事項では、佐賀県組合から「第93回全旅連全国大会 in さが」についての概要（開催日：平成27年6月3日・会場：佐賀市文化会館・懇親会場：マリトピア）が報告された。

食物アレルギー対応地域指導者育成研修会も実施

食物アレルギーについては、林典子栄養士が食物アレルギーの全体像について次のように講話した。

◇調査で判明したことは、「食物アレルギーがあると外食や旅行が自由にできない」ということ。また、保護者の食物アレルギーに関する悩みでは、「子どもの年齢が上がるにつれて外食の悩みが増えてくる」などあった。

◇食物アレルギーとは、「食物によって引き起こされ免疫反応を介して、生体にとって不利益な症状が誘発される現象」をさす。このため、食中毒、食物不耐症などは含まない。食物アレルギーの原因は食物のタンパク質であり、それ以外の成分（脂質、糖質など）では基本的に

「食物アレルギーのお客様対応マニュアル」を発行 実務の手引きや知識の涵養にと全組合員に配布

全旅連は旅館ホテルにおける食物アレルギーの対応マニュアル作成委員会（野澤幸司委員長）を開催、「お客様対応マニュアル」を作成していくことになった。同マニュアルには食物アレルギーの基礎知識や事故事例、事故防止のための取組みなどが掲載されている。発行は年度内で、各都道府県組合を通じて全組合員に配布していくことになった。



右・講演者の林栄養士 埼玉
県組合の沢津橋事務局長

食物アレルギーは起きない。全年齢における原因食物には、多い順からいうと鶏卵、牛乳に小麦、ピーナッツ、魚卵、果物類、甲殻類、魚類、ソバ、木の実類、大豆などが挙げられる。米、肉のアレルギーは少ない。

◇食物アレルギーにより引き起こされる症状には、じんましんや湿疹などの「皮膚症状」、結膜充血や流涙といった眼症状、くしゃみ、鼻汁といった鼻症状、舌の違和感・腫張、イガイガ感といった口腔咽頭症状などからなる「粘膜症状」、腹痛、悪心、下痢といった「消化器症状」、咳やゼイゼイするなどの「呼吸器症状」、そして、前記の症状がいくつか重なって起きるアナフィラキシーや、それらが重くなって、血圧低下が急激に起り、ぐったりしてしまうなど意識障害等を呈するアナフィラキシーショックといった「全身性症状」（その場で自分でできるエピペンという注射での緊急治療が可能。現在は小児でも使えるようになり、携帯している患者もいる）などがある。食物アレルギーの原因食物、症状は個人により異なるため食物経口負荷試験が必須となる。原因食物を明らかにし、除去食の必要性を判断する上で最も信頼性が高い検査となっている。ただし患者に原因食品を食べてもらわなくてはならないため、ショック症状など重篤なアレルギー症状をひき起こす危険性があるので、経口負荷試験に熟練した医師の監督下で慎重に行う必要がある。同試験を受けられる病院は、食物アレルギー研究会（<http://foodallergy.jp/>）のHPを参照されたい。

旅政連会議と理事会の全議案を承認

次期会長予定者に北原氏(京都府理事長)を信任



理事会であいさつする佐藤会長

平成27年度全国旅館政治連盟支部長会議と平成26年度第2回理事会が2月17日、東京・千代田区の砂防会館別館で開催され、支部長会議では平成26年度活動報告、平成26年度決算報告並びに会計監査報告、平成27年度活動方針案、パーティー券購入案及び収支予算案を議題とし、全議案を承認した。活動方針では、「耐震改修促進法による耐震改修工事について事業者に負担がより少なくなる補助率の引き上げと融資の確保を目指す」ほか、「国家戦略特区による規制緩和をした営業施設に対しては宿泊客の防犯上の安心と安全の確保を強く要望する」など12項目に加え、「消費税10%引上げの際、宿泊費を軽減税率の対象とするよう要望する」の項目が承認された。

続いて理事会を開催。議題となった平成27年度の事業計画案、会費賦課金案、収支予算案、ビジネスチェーンホテル一括入会(全国展開するチェーンホテル施設の一括入会)、平成27年度役員選考基準案(平成26年12月末の組合員数による選出)、平成27年度理事会並びに通常総会日時・場所決定(平成27年6月2日、唐津シーサイドホテルで開催)、平成27年全国大会(6月3日、会場:佐賀市文化会館、懇親会場:マリトピア)、平成28年全国大会(候補地は東京都組合。6月8日、京王プラザホテルでの開催を予定)の全てを異議なく承認した。

理事会閉会后、次期会長選挙が行われた。これは次期会長候補者が北原茂樹氏(京都府理事長)1名のみでの立候補となったことから、信任投票(郵送による事前投票による)となり、選挙管理委員会が立会人とともに開票、北原氏が多くの信任票を得て信任された。

北原氏は、佐藤体制8年間の中で行われた数々の功績に対して敬意と謝意を示したあと、「次代を引き継ぐわれわれとしては、今後とも財政基盤の安定化のために更なる努力を続けたい。また耐震改修促進法の問題



支部長会議であいさつする佐藤理事長。右は対会副理事長



所信表明を行う次期会長選挙で信任された北原氏(京都府理事長)



左から全国大会への大勢の参加を呼び掛ける小原佐賀県理事長、平成28年度となる全国大会を担当する東京都斉藤理事長、そして理事会で発言する北堀理事長



旅政連「全国の集い」に出席した観議連の細田会長、望月幹事長、高階事務局長。下は議員との懇談会



では、観議連、衛生議連と連携し、国土強靱化、防災大国日本、世界一安全な観光立国の実現を旗印に、旅館ホテルが防災拠点であり、最適な避難所であることを訴えていく。取り組むべき事業活動としては、地方創生と人材育成を重点事業とし、また組織強化や事務局の効率的な運営についても力を傾注していきたい」と所信を表明した。

会場を都市センターホテルに移して行われた旅政連「全国の集い」には、観議連の細田会長、望月幹事長、高階事務局長が出席し、業界が抱える課題や直面する問題等について語り、「観議連はその解決に向け、鋭意取り組んでいく所存だ」と述べた。

第5回全旅連正副会長会議開催

消費税外税表示と軽減税率の導入要望へ



全旅連は2月2日、平成26年度第5回正副会長会議を全旅連会議室で開いた。

【協議事項】＝①調査、研究、情報活動の展開で「宿泊型新保健指導プログラムへの取組み」（生活習慣病を効果的に予防することを目的に、糖尿病が疑われる者等を対象に旅館など宿泊施設等を活用して保健師、管理栄養士等で連携して提供するプログラム。厚生労働省は旅館ホテルへの宿泊や観光地の散策によって地域経済の活性化を目指す）や、また、税制要望の実現で「消費税の外税表示の恒久化と軽減税率の導入」などを新たに盛り込んだ事業計画案②会費賦課金案（従来通り1組員平均割方式で平均額2,532円）③収支予算案④役員選考基準案など、理事会提出の平成27年度における各種議案と全国旅館政治連盟平成26年度活動報告並びに収支報告、全国旅館政治連盟活動方針案は全て異議なく承認された。

【審議事項】＝全旅連協賛商社として株式会社C trip Japan（協賛契約）を承認。

【報告事項】＝①楽天トラベルが手数料等の料金体系の改定を検討し、全旅連に対し会合を持ちたいとしていることに対して、全旅連は検討委員会を設置した上で協議に臨むとした。②平成28年度全旅連全国大会実行委員会は東京都組合に設置していく。③旅館業の振興指針改定に伴う振興計画の策定については、各都道府県の組合において平成27年3月13日までに、振興計画の概要等を記載した申請書など必要書類を揃えて、都道府県知事に対し振興計画の認定の申請を行うこととなった。④九州各県の組合を通してノーショー状況や対策等について行ったアンケートの集計結果を発表。⑤厚生労働省の「健康局生活衛生課」は「医薬・生活衛生局生活衛生・食品安全部生活衛生課」となった。⑥第18回「人に優しい地域の宿づくり賞」のエントリーは1月20日現在団体1、

自民党観議連が共催組合施設問題で役員会開く



観議連の役員会は自民党本部で行われ、業界からは全旅連の正副会長を中心に大勢の役員が出席した



関係省庁からの現状についての報告も行われた

自民党観光産業振興議員連盟役員会＝写真＝が2月17日、自民党本部会議室で行われ、全旅連からは正副会長を中心に15名が出席した。議題は共済組合施設の取扱いについてで、十数年前、「民間と競合する公的施設の改革について」として閣議決定が行われたものの、現在、特に国家公務員共済(KKR)関係の施設における員外利用が著しく、旅館の営業に支障のあるような活動をしているとし、本役員会では、同席した関係省庁からの現状についての報告とともに、業界からの意見や要望を受け、今後、問題注視と政治的対処を進めていくとした。

【宿泊型新保健指導プログラム】厚生労働省が国民の健康寿命を延伸する社会のために取り組むこととして挙げているものの中に「健康増進・予防への取組を促すためのインセンティブ」があるが、その一環として特定健診等の結果、糖尿病が疑われる者等を対象とした「宿泊型新保健指導プログラム（仮称）」（ホテル・旅館等を活用して行う滞在型の新しい保健指導プログラム）の開発・普及促進に対して、全旅連としてどのように参加していくかを今後考えていくことになった。

個人2件。⑦青年部主催の第2回旅館甲子園は2月18日、東京国際展示場・会議棟1階レセプションホールで開催する。

全旅連女性経営者の会が勉強会を実施 メディアコミュニケーションの活用と実践



勉強会で新時代のメディアについて講演する石原氏

全旅連女性経営者の会（北川雅代会長）は1月27日、徳島県・阿波観光ホテルで定例会議を開き、勉強会では3つのテーマによる講演会を行った。その中で、石原浩巳氏（シンクフィールズ代表）は「新時代のメディアコミュニケーション～活用と実践」をテーマとし、プレスリリースについては次のように述べている。

◇ニュースは記者クラブに投げ込むか、お世話になっている記者に直接渡すことなどが考えられるが、新商品や新サービス、経営や技術などの企業・団体情報をわかりやすく文章化して伝える必要がある。「記者の習性を知る」→「記者の視点に立ったリリースの作りこみ」→「記事を成立させるための情報の順序で整理」→「記者が受け入れやすい表現で」を進めてほしい。記者はニュースを探しており、リリースの中に新しいことや珍しいことが見つかったとき、つまり、「見出しが立つ」と思ったときに心が動き、そのうえで報道価値があるか、時流に合っているか、また読者（視聴者）の領域かを判断する。だから、チラシやパンフレットではダメで、記者の視点に立ったリリースの作りこみが必要となる。記者は「ニュース性と裏付け」「社会性」「トレンド性」に視点を置いているからだ。なお、リリース文の作りは「結論」を置いたリード文から始めること。「起承転結」ではなく「結・起承転」とし、重要な要素から順番に書く「逆三角形」の文書構成がよい。



徳島県で行われた定例会に参加したJKKのみなさん

第22回全旅連青年部全国大会 都プロジェクトin京都

「維新伝心」～青年部(われら)の共創力(ちから)で未来を拓こう～



上から桑田次期部長と握手を交わす山口青年部長ステージに登壇して山口部長と握手する埼玉県青年部の村山部長、埼玉県青年部員たち

全旅連青年部（山口淳史部長）は平成26年10月8日、第22回全旅連青年部全国大会「都プロジェクトin京都」を京都市勧業館「みやこめっせ」で盛大に開催した。テーマは『「みんなが主役」自ら学ぶ全国大会『大人の修学旅行』』。



式典、褒賞発表、分科会、大懇親会と濃密で魅力的なプログラムが展開された。褒賞発表で示された全国各地域の事業活動、そして、この1年半で進めてきた各委員会による活動など有益な情報を共有する場として作り上げられた同大会は、まさに「みんなが主役」となった。平成25・26年度青年部が掲げる「『維新伝心』～青年部(われら)の共創力(ちから)で未来を拓こう」の活動テーマは、輝ける宿文化の上に立って大胆な変革を目指していくものであり、日本の伝統文化を今に伝えるいにしえの都である京都での全国大会は大きな成果を残すものとなった。



式典、褒賞発表、分科会、大懇親会と濃密で魅力的なプログラムが展開された。褒賞発表で示された全国各地域の事業活動、そして、この1年半で進めてきた各委員会による活動など有益な情報を共有する場として作り上げられた同大会は、まさに「みんなが主役」となった。平成25・26年度青年部が掲げる「『維新伝心』～青年部(われら)の共創力(ちから)で未来を拓こう」の活動テーマは、輝ける宿文化の上に立って大胆な変革を目指していくものであり、日本の伝統文化を今に伝えるいにしえの都である京都での全国大会は大きな成果を残すものとなった。



桑田次期青年部長を囲んで登壇した全国の次期ブロック長のみなさん

式典、褒賞発表、分科会、大懇親会と濃密で魅力的なプログラムが展開された。褒賞発表で示された全国各地域の事業活動、そして、この1年半で進めてきた各委員会による活動など有益な情報を共有する場として作り上げられた同大会は、まさに「みんなが主役」となった。平成25・26年度青年部が掲げる「『維新伝心』～青年部(われら)の共創力(ちから)で未来を拓こう」の活動テーマは、輝ける宿文化の上に立って大胆な変革を目指していくものであり、日本の伝統文化を今に伝えるいにしえの都である京都での全国大会は大きな成果を残すものとなった。



全国大会を中心的になって盛り上げた組織委員会のみなさん。画面中央には埼玉県の県営の喜びの顔も

第2回旅館甲子園を開催。もてなしの国の、極みへ。/東京ビッグサイト

旅館で働くスタッフの夢が、笑顔が、日本を元気にする。



東京ビッグサイトで開催された大会。あいさつする山口部長と佐藤委員長



ファイナリストのみなさんのプレゼン。それぞれに心が伝わってきて、大きな気づきと感動を呼んだ

「さかえや」がグランプリに輝く

「感動、感動、感動…。旅館の将来は明るい。」と佐藤審査委員長

多くの「気づき」と「感動」
全プレゼンのそれぞれに「こころ」

「旅館で働くスタッフの夢が!笑顔が!日本を元気にする!」。全旅連青年部のそんな熱き想いから誕生した「旅館甲子園」の第2回大会が2月18日、東京ビッグサイトで開催され、決勝進出の5施設のファイナリストの中から、「人を育て、人が育つ企業として働く人の人生がよくなるそんな会社をめざしたい」とする長野県の渋温泉「春蘭の宿 さかえや」がオンリーワンへの道を極め、見事、最高賞グランプリに輝いた。

全旅連加盟ホテルの中から出場希望施設を募り、各都道府県部長の推薦を得た25の施設からさらに選ばれた5施設のファイナリストが大会会場で元気なプレゼンを展開し、それぞれに大きな感動を与えた。それは審査員から思わず「旅館はスゴイ!」の声がでるほどであった。さかえや社長の湯本晴彦氏は、「お客様の『絆』が深まるような想い出づくりの場の提供に努めております」と語る。

お客に送るハガキは『絆郵便』と呼んでいる。さかえやでは不登校、引きこもりの学生への就労支援などの取り組みも行っているが、そのスタッフの一人は「トイレを磨き、廊下を飾り付け、心を込めてハガキを書く。こんな私たちが素敵になれたら、今、『自分なんてダメじゃないか』と思っ



グランプリの発表直後歓喜の声を上げる「さかえや」のみなさん。下は喜びの湯本社長



ている人たちに元気をあげられるかもしれない」と元気にハキハキとした口調で語る。「問題点と改善策と結果」「オーナーのビジョン」「スタッフ教育とビジョンの共有」「地域への貢献」の審査項目に呼応したさかえやだが「素朴なおもてなし」を愉しむことができます。決して設備がいい訳でもなく、いい景色がみえる訳でもありません。それでも、ありがたいことに、スタッフを応援し、さかえやを応援してくださる方が増えています」そして「私たちは素晴らしい旅館ではないかもしれませんが、だからこそお客様がきてくださることに心から感謝いたします。これからも、皆様に応援してもらえる私たちになって行きたいと思っています」と湯本氏は述べている。

「旅館甲子園」もてなしの国の、極みへ。



第2回旅館甲子園の審査員のみなさん



決勝会場票コイン投のみなさん



見事な司会を務めた埼玉県青年部の柏木さん。左は奥様(プロの歌手でこの日もショーをみせてくれた)。下はステージで行われた数々のアトラクションと応援に駆け付けた長野県のみなさん



書籍案内「外国人だけが知っている美しい日本」著者は群馬県在住スイス人

新刊の『外国人だけが知っている美しい日本』～スイス人の私が愛する人と街と自然～が興味を引く。著者は月間1000万PV（ページビュー）を超えるジャパンガイドを運営する群馬県在住スイス人のステファン・シャウエッカー氏。われわれ日本人から見た「日本」と外国人から見た「日本」では見方も感じ方も違う。異邦人の視線で日本や日本人を見ると面白いという類書は数多くあるが、「観光のプロ」という視点は明快で新鮮——と人気上昇中だ。



日本人が知らない『日本の名所』を訪ねており、日本を再発見できる読みものとして面白いものだが、それは「わが地域の魅力あるものとは」を考えるヒントにもなる。

地方への誘客には、東京や大阪にはない「自分たちの良いところ」「ここでしか体験できないもの」を地域、地域で再発見し、広く発信していかなくてはならないが、その意味では、この本は「観光立国」の道筋を与えてくれるものでもある。大和書房から発売。本体1,300円。

<エクステリアの総合商社>

あらゆる外構エクステリアから室内手すりに至るまで責任施工で対応させていただきます。

人工竹垣・人工芝・物置・カーポート・門扉
フェンス・ポスト・レンガ・ブロック・石積み
オリジナルロートアイアン・テラス・ベランダ
オーニング・サンルーム・ウッドデッキ・光触媒・
室内手摺・イルミネーション等々ご提案。

お見積り無料です。

お気軽にお声掛け下さい。

株式会社 トコナメエプコス

お問い合わせ 営業四部 濱田

〒160-0003 東京都新宿区本塩町23

03-3354-5101・080-3422-4600

<http://www.tokep.co.jp>

リネンサプライ・寝具のご用命は

(株)白興にお任せ下さい！！

(株)白興は、お客様がお使いになるリネンの洗濯・配送のサービスを行っております。

全7工場によるサービス体制は洗濯から配送に至るまでの一括方式で行っており、お客様に真心と安心をお届けしております。

その他寝具類やベッドライナー等の販売及びリースのお取り扱いもごさいます。

色々な形でお客様のお役に立てる様、最高のご提案とサービスを追求致します。

安心のネットワーク 全7工場がお客様をアシストします

7工場のネットワーク

守谷工場 三郷工場 日高工場
栃木工場 栃木工場
川口工場 千葉工場

事業内容

- リネンサプライ
- 寝具販売・リース
- ユニフォームレンタル

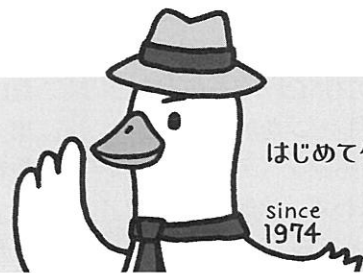
HAKKO
TOTAL AMENITY SUPPLY

株式会社 白興

●本社
東京都荒川区荒川3-33-1
TEL 03-3807-0309

【お問い合わせ先】
●リネンサプライ開発部
埼玉県三郷市市助 126-2
TEL 048-952-8346

NEW/
新 生きるための
がん保険 Days



はじめてダック

Since
1974

*商品の詳細は「契約概要」等をご確認下さい。

団体扱い

(財) 全国生活衛生営業指導センター賛助会員
アフラック募集代理店

(株)ユニバーサルファミリー

埼玉営業所

〒336-0018 さいたま市南区南本町 1-14-5

0120-68-5166

【引受会社】首都圏総合支社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 1-23-7 新宿ファーストウエスト 17 階
お問合せ・各種手続き コールセンター 0120-5555-95